

ISO/TC 127 (土工機械) /SC 2/WG 16 (ISO 13766 電磁両立性) 国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert)

砂村 和弘 (日立建機) 他

- 1 会議名 : ISO/TC 127/SC 2/WG 16-ISO 13766 (電磁両立性)
 - 2 開催地 : 米国イリノイ州モリーン市ジョンディーア社本社会議室
 - 3 開催日 : 平成 23 年 11 月 8~9 日
 - 4 出席者 : イタリア 1 : Giuseppe Bassani (CNH Italia S.p.A 社)、英国 1 Alan P Burrows (JCB 社)、ドイツ 4 : Ulrich Drees (FAYAT BOMAG GmbH 社)、Werner Grommes (IFA ドイツ法的損害保険の労働安全研究機関、旧称 BGIA)、Rene Kampmeier (VDMA ドイツ機械工業連盟)、Wolfram Klimars (AVL Trimerics GmbH 社)、フランス 1 : Paul (Mazet CETIM フランス機械技術中央研究所?)、米国 6 : Mark Elliott (Caterpillar 社)、Jeff Neisen (Phoenix International Corp 社)、Rick Weires (John Deere 社)、Steve Neva、Michal Karas (Doosan/Bobcat 社)、Gerry Wells (Charles Machine Works/Ditch Witch 社)、日本 3 : 砂村 和弘 (日立建機)、吉田 克美、西畑 考志 (コマツ) 計 16 名出席
- ISO/TC 127/SC 2/WG 16 コンビナー (主査) 兼 ISO 13766 改正プロジェクトリーダー (PL) : 前記 Wolfram Klimars 氏 (ドイツ、Trimerics 社)

経緯 : 電磁両立性 (機械の電子系の外部電磁環境に対する耐性 = イミュニティ、及び、外部電磁環境への不要な電磁妨害波の発生 = エミッション、の双方を不具合のないレベルに規制する) に関する ISO 13766 と CEN 規格 EN 13309 の整合を図るため、SC 2/WG 16 で検討しているが、ISO 13766 を二分して EN 13309 に基づく基準を ISO 13766-1 とし、機能安全に関する要求基準を ISO 13766-2 とする方向となっている。

5 会議結果概要 : ISO13766-1 として電界強度 30V/m を要求し、EN 13309 との整合を計る。一方特殊条件下としながらも、“市場にてありうる”電界強度 100V/m を ISO 13766-2 として規定しようという従来の方針に対し、もう一度イタリアのジュゼッペ氏から疑義がだされ、それで論議の大半を費やした (いわば蒸し返し論議)。日本の立場として、製造者としては、どうせ 100V/m までは試験しなくてはならないのだから、「今と変わらない」のでその方針に反対してこなかったが、どちらも強制される要求事項を二つの規格に分けてそれで EN との整合がついたといえるのだろうか。そのへんのところは ISO 中央事務局と相談したいのだが、議長のウルリッヒ氏はいまだに次回の会合も作業原案 WD 作成委員会として開催し一向に次の段階である委員会原案 CD で回覧する気持ちが無い。この作業項目は「欧州規格と ISO 規格の整合」という日本としてはあまり口だし出来ない理由で枠組みが決められ、かつ崩れる可能性をはらんで

おり、注意して見守る必要がある。いまだに CD にしない理由の一つに「まだ
だいぶ試験方法に関して詳細いじりたい（特に-2）。」としており、その点に関
しても次回の案文をチェックが必要。（次回案文が来たところで、日本国内で検
討会を開催したい。2012年1月下旬予定。）。

6 次回会合予定：次回は2月6～10日のどこかで、自律式機械と組み合わせの会
議開催。場所はフランクフルトのVDMAにて、CD提案の日程は話が出ない。